

令和4年11月9日

東海旅客鉄道株式会社
代表取締役副社長 宇野 護 様

静岡県中央新幹線対策本部長
静岡県理事 難波 喬司

高速長尺先進ボーリング及びトンネル掘削に伴う大井川の水資源への影響について（要請）

令和4年10月31日に開催した第9回地質構造・水資源部会専門部会（以下、「専門部会」という。）において、貴社から「南アルプストンネル山梨工区・長野工区の進捗状況等」について、御説明をいただきました。

貴社の説明では、先進坑は既に、山梨・静岡県境から約920mの地点に達しているとのこと。このため、静岡県内の水がトンネル内に引っ張られ、山梨県側に流出する懸念が高まっています。

また、本来、地質調査は、工事実施前に地表からのコアボーリングを行うべきところ、それをせずに高速長尺先進ボーリングにより、「山梨・静岡県境を越えて行う」考えが示され、このことによる本県内の水資源の流出も懸念されます。

ついては、第9回専門部会における対話を踏まえ、以下のとおり意見を申し上げます。

- 1 水圧差の関係上、山梨県側のトンネル内へ静岡県内の水が引っ張られ、県外に流出するのではないかという懸念があることに対する回避策を示していただきたい。（高速長尺先進ボーリングを含む）
- 2 高速長尺先進ボーリングの主たる目的は、工事実施段階において、トンネル湧水量の低減を図るため、地質や湧水の確認を行うものと受け止めている。国土交通省のリニア中央新幹線静岡工区有識者会議における貴社説明資料2 5-1 ページに、高速長尺先進ボーリングについて、下記のとおり記載されている。
県境を越えて高速長尺先進ボーリングを工事実施段階に行うと、静岡県内の地下水に影響を与えることが懸念される。これに対する回避策を示していただきたい。

5 工事実施段階における取組み

(1) トンネル掘削時におけるトンネル湧水量の低減

- ・先進ボーリング時には掘削のスライムや掘削時に要するエネルギー等から地質の状況のほか、破砕帯等が存在する場合にはその位置や延長を確認します。
- ・先進ボーリング孔の湧水量を掘削状況に応じて確認し、事前に実施していた解析結果等と比較し、濁水処理設備の追加や掘削前のコアボーリングの必要性の検討等を行います。
- ・先進ボーリングの結果、破砕帯等や湧水量の変化が著しい場所、地質の変化が想定される場所においては、コアボーリングを行い、地質の性状を詳細に調査します。

また、第9回専門部会で、田代ダム取水抑制案に対する法的問題に関して、貴社から、政府見解について口頭で説明がありました。この問題は、法律上大変重要な問題でありますので、専門部会において、根拠を明確に文書で示し、説明いただきたい。

貴社におかれましては、静岡県内地下水の県外流出量の全量が大井川に戻す方策を速やかにお示しいただくとともに、上記の山梨県側からの高速長尺先進ボーリング及びトンネル掘削に伴う大井川の水資源への影響と対策について、速やかに専門部会で協議していただくよう要請します。

併せて、令和4年10月13日付け「リニア中央新幹線南アルプストンネル工事に係る協議について」で貴社に依頼したとおり、専門部会において、「工区設定理由等について」の御説明をお願い致します。